





壯麗なる大層樓

◆候補地を檢分

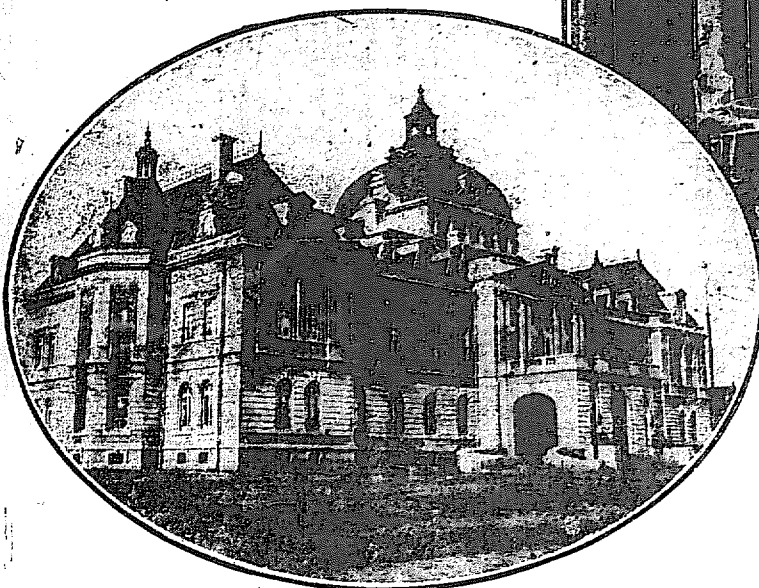
花見 花見

加五里と牛耳洞の花  
は明日の日曜が見頃

聞花を控へてゐ  
た花を誘つて殆  
んど九分通りは

咲き出たこの事

して見れば、雨のあとの花の早  
 けの日の曜日は申し分の無  
 盛りは今日咲き揃ふ艶なる花の  
 は此の日を拵いて他に見られま  
 ず平河に比べ山一つ隔てて南を  
 た加五郎の標はあつたりの牛平河  
 三四日早いのは毎年の例地盤  
 盛るとは言ひながら人の出盛る三



離宮候補地となりたる龍山の總督官邸

◇六十萬圓の巨費

を投じて密懸人技師  
ランデ氏の設計によつて建  
に兩三年前内部の大改造を施し  
頂閣のそり立つた大理石造の  
の壯麗なる結構は建築の當時と  
鮮人は素より内外人の眼を驚か  
であつた朝鮮に障宮を置くこゝ  
寸無用の如く考ふるものもあれ

の日曜に丁度盛りに達した加五里の  
 花の笑あつる喜びよ、然は言「又咲か  
 ぬ當の間こそ邪氣な風情もあれど  
 木沓の花に惚惚する人は満開半開又  
 満開併せ観るこそ最も興多いこと  
 であらう、二十九日は朝の間にべの  
 名残りの小雨が降つたけれど  
 有情の天に花観

る人の風流心を  
憐れんてか雨は  
霽歇つて花曇り

照らす、風もない。眺めへ向きの花は、  
日知に京城高等女學校生徒の四百五  
十名、京城中學校生徒の數百名は、  
員に連れられて、加五里牛耳洞へ遠出  
に出かけた、新らしき古きを。

愛する人の心は牛耳洞の耳馴れ、目馴れたそれをもよし、されど新國の御  
五里を觀ねば殘念と馬車、自動車、

ては人力車を騙る人の群れ、その道に絶えもやらず、花の櫻の新名所、加五里の里の賑ふ事、馬ふ事、又三

十、王儲は、總督府の役人、通譯、西百人、京坂電氣の五十人、三井物産の總員を始めとして、官公衛銀行會社その他各方面の團體は加五里をせざることにまつてゐる。今からいへばその日の腰はひ胸が躍るやうで

此の遠來千賓萬客を迎へて手落

の無いやうにと  
同所の稻垣農場  
では數日前から夜を日についで

入れ工事に舊般の設備は悉く出来上つたが、その日の近づくに随がつゝ加はる盛んな景氣に、若しや湯茶

設備に不足でもあつては、更に十五の準備をし、外に清涼飲料から辟暑の準備をした外に、用意は擇いとすし、なんど一切の用意は擇いとす。ろへ手の届くほどの設備は、溜りな

出來た  
加五里牛耳洞行  
の花見列車は廿

五日まいにちから毎日まいにち運うん轉てんされてゐるが

増結、増發するといふ景氣、切符  
南大門龍山兩驛で賣出し五枚以上  
配達される便利

ある、賃金ちんぎんは南大門みなどからでも龍山りゅうざんらでも同じでその賃金ちんぎん時表ときへうは左廻り

南大門發	午 前	午 前
八、四二		九、五〇
龍山發	八、五二	一〇、〇〇
三等	大人四十五錢	小兒廿三錢
二等	大人六十錢	小兒四十錢
一等	大人八十錢	小兒六十錢

西水庫發	九〇七	一〇〇
往十里發	九〇八	一〇〇
清涼里發	九一四	一〇二
倉洞著	九三〇	一〇四

ヒラ／＼と散り  
かゝる花の下で

閨秀畫家が縮筆  
を運ばす所詩情

まじい催しとしては古くから傳  
朝鮮弓術家の弓術大會がある、  
この名所で弓の名手が集まつて矢  
を打つのも面白く、花を見なが

酒を酌みながら是等の歡樂に浸るは加五里ならでは見られぬ興加五里では花見の外に摘草による

は達が密生してゐる、然かも又  
の毛氈を敷き詰めたりうな背草  
の唄ふ小山には此處の名物の族  
生してゐる、そこには又濕漉た

此處の水は四時澄み透つて洗滌者

加五里へお出でなさい、加五里  
先ければ花の名所を語る資格を  
京城近郊の花を説く人は先づ

里へお出なさいと吾々は絶叫す

如五里牛耳洞方面か  
の花簍に依れば二十

ふから此暖氣なれば三十日の日曜  
今年の花見デーと定つた▲氣  
耳洞六分の開花だこ  
日の朝は加力里九分

ひなのは空模様だけれども測候所  
は低気壓の急變がない限り花曇り  
うといふ夜半に嵐の吹かね様に

▲東小門から加五里は二里半あるが健脚を誇る人に  
途中の春色を採りながら適當の道は北漢

登つて加五里牛耳洞に下るのも  
い、此場合には歸途は汽車の便  
がないと日曜一日の遊びには少

電車  
●東小門より加五里  
●東小門より加五里  
●東小門より加五里

●沿道の櫻桃幽邃なる緑林楊柳の並木花點々

●春川街道より加五里へ一里半牛耳洞へ二里人力車の便あり

●東拓出張所の香いが高い

往十里線 蘇島模範農場  
果樹園も西洋花

●金華園の花壇眺望畫の如し……………

電車

麻浦線  
漢江の畔  
市人の遊地

●し德里公對湯封の釜道漢江畔蘭草

電車

●孝昌園の摘草の好適地漢江の船遊

新龍山線葛月里の樺

舊龍山線

族家 同伴 清遊地

●鐵道公園、梨太荒の桃花見頃

上總三茂衛門殿、  
清書出明、五馬路、  
四月三十日、  
三茂衛門殿、  
〇〇日、  
〇〇日、











# 京城日報

刊朝日十三 (頁八てせ合と刊夕)

## 京城論壇

### 最後の勝利は機械戦肉弾戦

陸軍少将 白井二郎

戦争の歴史は、大抵二つの形に分類される。一つは、機械戦、もう一つは肉弾戦である。機械戦とは、銃、砲、戦車、飛行機などを用いて行われる戦いである。肉弾戦とは、兵士が自らの身体を犠牲にして行われる戦いである。戦争の歴史は、機械戦と肉弾戦の交互に繰り返されてきた。機械戦は、戦争の規模を拡大し、犠牲者を増やした。肉弾戦は、戦争の残酷さを露呈し、人々の心を震撼させた。戦争の最後は、機械戦と肉弾戦の決戦となる。機械戦は、戦争の最後を飾る。肉弾戦は、戦争の最後を締めくくるといえる。戦争の最後は、機械戦と肉弾戦の決戦となる。機械戦は、戦争の最後を飾る。肉弾戦は、戦争の最後を締めくくるといえる。

## 土佐山公

宇佐美勝夫

土佐山公の詩は、自然の美しさを詠嘆し、人生の哲理を説く。宇佐美勝夫の詩は、社会の現実を批判し、理想を追求する。土佐山公の詩は、自然の美しさを詠嘆し、人生の哲理を説く。宇佐美勝夫の詩は、社会の現実を批判し、理想を追求する。土佐山公の詩は、自然の美しさを詠嘆し、人生の哲理を説く。宇佐美勝夫の詩は、社会の現実を批判し、理想を追求する。

### 京日案内

東京市役所 電話 二二二二  
東京市立第一中学校 電話 二二二二  
東京市立第二中学校 電話 二二二二

### 京日案内

東京市役所 電話 二二二二  
東京市立第一中学校 電話 二二二二  
東京市立第二中学校 電話 二二二二

### 京日案内

東京市役所 電話 二二二二  
東京市立第一中学校 電話 二二二二  
東京市立第二中学校 電話 二二二二

## セルセの御用は三越へ

三越呉服店

## セルセの御用は三越へ

三越呉服店

## セルセの御用は三越へ

三越呉服店











